



平成27年3月期 第2四半期 決算説明会

クボテック株式会社

経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年9月期)	前第2四半期 (平成25年9月期)	前 期 (平成26年3月期)	当期予想 (平成27年3月期)
売上高	1,474	1,274	2,491	2,900
営業利益(△損失)	68 (4.6%)	△ 108 (△8.5%)	△ 457 (△18.4%)	100 (3.4%)
経常利益(△損失)	61 (4.2%)	△ 106 (△8.3%)	△ 448 (△18.0%)	90 (3.1%)
当期純利益(△損失)	541 (36.7%)	△ 117 (△9.2%)	△ 263 (△10.6%)	580 (20.0%)

◎当第2四半期は、売上高は前年同期に比べ、画像処理外観検査装置、3DCADシステムが増加し、また固定費削減などの対策によって損益構造の改善が進み、損益は黒字となりました。

◎通期においても、画像処理外観検査装置の受注・売上は好調で、当初計画通りの利益を達成できる見通しです。

◎海外子会社も堅調に推移しており、通期においても黒字を確保できる見込みです。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年9月期)		前第2四半期 (平成25年9月期)		前 期 (平成26年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
流動資産						
現預金	1,493	38.9	1,075	27.3	1,034	28.4
売上債権	784	20.4	560	14.2	597	16.4
在庫	574	15.0	503	12.8	538	14.8
その他	△ 43	△ 1.1	△ 12	△ 0.3	△ 51	△ 1.4
固定資産	1,030	26.8	1,812	46.0	1,522	41.8
資産計	3,839	100.0	3,939	100.0	3,641	100.0
流動負債	2,215	57.7	2,761	70.1	2,292	62.9
固定負債	335	8.7	296	7.5	617	17.0
負債計	2,551	66.4	3,058	77.6	2,909	79.9
資本金	1,951	50.8	1,951	49.5	1,951	53.6
利益剰余金	△ 627	△ 16.3	△ 1,023	△ 26.0	△ 1,168	△ 32.1
その他	△ 35	△ 0.9	△ 47	△ 1.1	△ 51	△ 1.4
純資産計	1,288	33.6	880	22.4	731	20.1
負債及び純資産合計	3,839	100.0	3,939	100.0	3,641	100.0

◎総資産は、前年同期末に比べ、現預金、売上債権などで7億円増加し、固定資産の売却などで8億円減少し、38億円となりました。

◎負債は、前年同期末に比べ、借入金などで5億円減少し、25億円となりました。

◎純資産は、前年同期末に比べ、純利益の計上から4億円増加し、約13億円となりました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年9月期)		前第2四半期 (平成25年9月期)		前 期 (平成26年3月期)	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
日 本	1,050	71.3	656	51.5	1,355	54.4
米 国	200	13.6	189	14.9	408	16.4
韓 国	223	15.1	428	33.6	726	29.2
計	1,474	100.0	1,274	100.0	2,491	100.0
うち海外	1,065	72.2	934	73.3	1,566	62.9

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置が、国内外の大手液晶メーカーからの受注が好調で上期は納期の前倒し等もあり当初計画を上回り、また前年同期に比べ増収となりました。

さらに、3DCADシステムも、2Dと融合した製品の拡販を図るなど、当初予想を上回る増収となりました。

◎米国では、事業再構築計画に沿って固定費削減を進める中、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の売上が堅調でほぼ計画通りとなりました。

◎韓国では、韓国大手FPDメーカー向けの画像処理外観検査装置関連部品の販売が低調で減収となりました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成26年9月期)	前第2四半期 (平成25年9月期)	前 期 (平成26年3月期)
I.営業活動によるキャッシュ・フロー	211	147	△ 149
II.投資活動によるキャッシュ・フロー	963	△ 102	302
III.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 718	△ 300	△ 468
IV.現金及び現金同等物に係る換算差額	2	12	32
V.現金及び現金同等物の増加額	458	△ 242	△ 282
VI.現金及び現金同等物の期首残高	942	1,224	1,224
VII.現金及び現金同等物の期末残高	1,400	982	942

◎営業活動によるキャッシュ・フローは、純利益の計上、仕入債務の増加などから2億1千万円の収入となりました。

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KEYCREATOR」の開発投資で8千万円の支出と営業所の土地売却による10億5千万円の収入で、9億6千万円の収入となりました。

◎財務活動によるキャッシュ・フローは、借入返済等により7億円の支出となりました。

まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、スマートフォンやタブレット端末などの製品市場は堅調に推移し、大手FPDメーカーの設備投資は、一部で前向きな動きが見られました。
- ◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置は、前年同期と比べ売上は増加し当初計画を上回りました。また、3DCADシステムの販売も好調で、損益は黒字となりました。
- ◎通期においても、画像処理外観検査装置をはじめ売上は当初計画を確保できる見通しで、損益も4期ぶりに黒字になる見込みです。
- ◎当社グループは、このような状況のもと、新規事業、新製品の開発をはじめ、コスト削減などの対策と事業構造の改革にも取り組み、売上と利益の確保に努めております。
- ◎新規事業の次世代フライホイール蓄電システムの開発は、3年目を迎え順調に進んでおります。独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)からの助成も継続しており、早期の事業化を図る方針です。